

海蔵社協通算 第52号
平成18年3月

地区広報

かいぞう

戦後60年とひとくちにいうものの……

平成17年度は戦後60年
高度経済成長から30年
あっという間の激動の年を生き抜いた先達の
思いを知ろう。伝えよう。



阿倉川町昭和20年7月の寸描

特集「座談会」～私にとっての戦後60年とは



新春早々、食糧難時代を思い出す
「すいとん」をほおばり、それぞれの戦後60年
を語って頂きました。



海蔵地区の人口 総数12,606 男6,263 女6,343 世帯数4,798 (2月末日現在)

編集・発行 海蔵地区社会福祉協議会

印刷/株イヤマ印刷

談会

出席者	
80歳代	男性2名
70歳代	男性2名 女性1名
60歳代	男性1名 女性1名
50歳代	男性1名
40歳代	男性1名 女性1名
30歳代	女性1名



「私にとっての戦後60年」

戦後60年
戦争、終戦、高度経済成長期、高齢化社会、少子化問題が取り沙汰される現代まで、時代背景と共に変わってゆく世相を海蔵地区の皆さんは、どのように感じられたのでしょうか。
この60年という間に変わってしまったこと、これからも残していきたいことなど、30代から80代の皆さんから多くの意見が出された有意義な座談会でした。

戦争を体験して

……鈴鹿から見たすごくきれいな花火は四日市空襲だった。……
軍隊はある意味、人間を育てた。上官の命令は絶対であり、死は考えたことがなかった。
軍人勅諭「上官の命令は朕の命令と思え」
軍隊の緻密な計画性・実行性は現代社会にも貴重だ。
食料難は体力ばかりでなく精神力の欠落も招いた。
死を恐れない軍国主義から戦後は180度転換した。でもそう簡単には人間は変わらない。
そして、その土台は戦中に作られた。
大和魂で鍛え上げられた。
世の中どんなことでもできるという経験で精神は鍛えられた。
海兵団を志願して召集令状で土浦へ。でも一人息子は「増産策」で父親の迎えに連れられ、て故郷に…だから、今生きている。
戦時中といえば、麦踏、茶の実拾い。お茶の実が燃料になるなんて、子供ながら日本が勝つわけないとひそかに思った。
各家庭には防空壕があった。その壕を直撃され一家が亡くなった……。

戦争は知らないけれど…

「隣に座っていた人が突然銃弾に当たって死ぬんだ…。」「戦争を生き延びた人は運がいい。」とは戦争を体験した父の口癖だった。
海人草の味、シラミDDT、ひび、あかぎれ、みんな鼻水をたらして袖口ががてかっていたものだ。
戦争は映像や、書物でしか知らないが、今ここで話を聞いて、本当にあったんだと思った。絵空事じゃなくここに戦争を体験した人がいる。子供達に伝えなくちゃと思う。その悲惨さを風化させてはいけない。できれば子供達に、じかに聞かせたい。
「大きくなったら軍人に!」と疑う余地もなかった。進駐軍との出会い「ギブ ミー チョコレート!」
戦争で受けた傷ばかりでなく、日本が他国にしてきたことも伝えるべきでは。

平成18年
1月9日

座

戦後60年で無くしたもの

日本は「農業立国」で食べ物が基本でありその背景には宗教観が存在していた。でも高度経済成長時代から人間の存在感が薄れてきた。

現代はお金さえあれば、生活には困らない。でも空気、水など自然を大切にしたい、お金に頼らない生活を重視したい。災害時にも生き抜ける力に欠ける気がする。

ものを大切にしない、節約精神がない。「もったいない」は死語?。

戦時中は隣近所の助け合いがあった。今は隣近所の付き合いは無くなってきている。

迷惑かけない生き方…他人との接点はないほうが煩わしくないと思う時代。

道徳教育に欠ける。

社会が能率主義で、企業ばかりでなく、家庭環境の中でゆとりが無くなっている。もっとゆっくり、じっくり過ごしてもいいのでは。

「遠い親戚より、近くの他人」のはずが、隣近所との連帯感が不足している。相互扶助こそ地域の底力。自販機やコンピューターの発達で人と人との関係を希薄にした。

「世間で笑われることはしてくれるな」という意識が欠けているような気がする。「世間の眼」という抑止力が無くなった。「親の背を見て子は育つ」親が真剣に生きる姿をみせることが大切。

残したいこと、伝えたいこと!!

最近の犯罪報道を聞くと、心が荒ぶ。「道徳教育」を大切にしてほしい。そして人は一人では生きていけないこと。

「一人は皆の為に、皆は一人のために。」相手の身になって、考え行動できること。

物質文明が豊かになって、「金さえあれば」という考えや、一攫千金を夢見る若者達? 豊かな経験こそ豊かな人生を送ること。人のために動くこと。

鍵をかけなくても外出できる街づくり。



決して過去の精神や考え方の全てが素晴らしいわけではありません。しかし、豊かで平穏とよばれる時代にも、新しい問題も多く発生しています。

その中には地域で共に生活している者同士が世代を超えて守り育てていくべき信頼や連帯感を保つ努力を怠っていることが指摘されます。助け合いや、連帯はなにも戦争や災害などといった非常時だけのことではありません。

これからの海蔵地区が住みやすく、安全な地域をめざすためにも互いの声に耳をかたむけることが必要ですね。そのためには世代を超えた地域社会のコミュニケーションの構築が大切です。さまざまな社会情勢を乗り越えてみえた世代の声を聞くことのできる海蔵地区のよさを実感し、地域社会に反映していければよいと思いました。

すいとん



小麦粉を水で溶いてドロドロ状をスプーンでお野菜一杯のお汁の中へ。固まったら完成!



海蔵川、菖蒲園、桜堤防の清掃



水質検査



蔵地区 れあい街づくり

桜まつり



街角花いっぱい



婦人会歩こう会



グランドゴルフ大会





山手中学校3年生と若生会のみなさんとの交流会



11月10日(木)山手中学校の総合的な学習の時間に、山手中学校3年生生徒178名と若生会(海蔵地区老人会)35名の皆さんとで交流会を開催しました。校庭ではグランドゴルフをし、生徒たちは若生会の皆さんからボールの打ち方やスコアのつけ方を教えていただき、1ゲーム(3コース)を楽しみました。また、調理室では豚汁やおにぎりをいっしょに作り、おばあちゃんの味を伝授していただいたようです。子どもたちは「おいしいちゃんたちのグランドゴルフの腕前は最高」「おばあちゃんたち、料理がうまい」と笑顔で語り、高齢者の皆さんは「子どもたちはみんなユニークだ。若返ったわ」と感想を述べていました。

核家族化、少子化が進む中、3世代の交流はなかなか出来ません。そこで、数年前からこのような交流を持つようになったそうです。この交流会が単にゲームや調理をするということだけではなく、半世紀を超える年齢の差を物ともいわせず、お互いの気持ちを理解し合う場となっていることにすばらしさを感じました。

海蔵のまちをつくらう!



人権を考える集い

十二月十日、海蔵小学校体育館で、第十四回「人権を考える集い」が開催され、本年度は「裁判員制度について」講演が行われました。

平成二十二年からスタートする「裁判員制度」の意義や目的、具体的内容について、現職の検事中條隆二さんに詳しく説明していただきました。

「裁判員制度」について、初めて聞く人が多かったようですが、俳優の中村雅俊さん主演のドラマ化した映像を上映し、大変分かり易い内容だったので、海蔵地区の多くの方に理解を広げたいと思います。



ですか?

堀川ジャブズジャブ作戦



三年前から海蔵・大谷台小学校、山手中学校の子どもたちが中心となってEM(有用微生物群)を使って堀川を浄化しています。その活動の内容を十月二十八日、四日市文化会館で行われた「EMサミット」で発表しました。

そして、ライオンズクラブから「百倍利器」というEM培養装置を寄付していただきました。EMを利用したい方は、山手中学校に足をお運びください。堀川浄化には、一人でも多くの協力が必要です。みんなの力できれいな堀川の水と伊勢湾の自然を取り戻しましょう。



サマースクール&ウインタースクール開催



長い夏休み…どこの家庭でも、元気な子どもたちとの夏は本当にホットな毎日です。でも、障害児にとっての夏休みは少し違った思いで過ごします。一人で好きな時に好きなところへ行けませんから、家にいるばかりで、身体の機能低下やパニックを起こす子もいます。そこで、家族はスーパーや散歩に連れて行ったりして、その子なりの日課を作って過ごすのが現状です。障害児にとっては、いつもこの長期休暇をどう過ごすかが大きな問題として論じられてきました。「長期休暇こそ地域ですごしたい!」という熱い思いから海蔵地区では、他地区にも呼びかけて「つくし学級海蔵小障害児学級」の保護者が実行委員会を作り「サマースクール」を開催しました。地域のボランティアグループの協力を得て、親子、兄弟参加の楽しいひとときを過ごしました。そして、冬休みは「ウインタースクール」を開催。ここでは「海蔵学童保育 なかよし学級」の子どもたちの紙芝居の読み聞かせなどを通じて交流も出来ました。地域の皆さんのあたたかい見守りの中で今後も続けて欲しいと思います。

みんなで支え合える

当日会場にて一部のみ上映された「裁判員制度」の映像は、各裁判所でDVD貸し出しを行っているそうです。試験ご希望の方は、ぜひ裁判所にお申し出ください。楽しく勉強できますよ。



また、当日は小学校教室を利用して、四日市人権擁護委員会の協力を得て、「こどもじんけんひろば」も同時開催しました。会場には子どもたちの「人権紙芝居」「手話ソング」また、お楽しみコーナーで、クリスマスグッズや竹細工作りなど製作あそびを楽しむ声が続いていました。

多くの方が関心をもって、子どもたちが楽しめる内容であったとの声が多く、海蔵地区の人権意識が高まった二日でした。

ご存知

福祉の家 旧海蔵保育園内

毎月二十九日は「いきいきサロン音楽療法」を行い、六十歳からの方々が昔を思い出して、童謡・唱歌・歌謡曲などいろいろなジャンルの歌を歌います。

月曜日から金曜日までお友達と楽しく過ごせる憩いの場所となっています。



ちよつと一服



粉飾決算などによる株価操作、耐震強度偽装、試験データ改ざんなど、「こまかし」ばかりの昨今です……

こまかしの語源については、二つの説がある。一つは、江戸時代に、内が空で外側にごまをまぶした胡麻胴乱という菓子があり、それを胡麻菓子と呼んでいたのを、目先や表面だけ飾って内容の伴わないことを、もう一つは、仏教には無事息災を祈って護摩木をたく行事があり、弘法大師の護摩の灰が利益があるとされたいのでその灰に似せたインチキの灰を売ったことから「こまかす」といったという説である。



大切な大切な家族の一員



食糧難を支えてきた『ひねづけ』はいかがが？

漬け物は沢庵に始まって沢庵で終ると云われる程、やさしい様で難しいのが沢庵だそうです。
この沢庵漬の中で漬けてから四ヶ月経つてから食べる土用越しの沢庵（ひねづけと称する）の作り方を伝授しよう

◆大根の準備

漬物用の大根を播種後二ヶ月半ぐらいで収穫、二〜三週間乾燥（一本1kgまでの太さ）

◆漬込材料

（干し大根30kgに対して）
砂糖1kg、塩25kg 沢庵漬の素、唐辛子、できたら茄子の葉を乾燥し粉にしたものなどこれらをよく混ぜ合わせ漬物の段数に合わせて分割して使用する

◆漬け方（別途図）

隙間の出来ないようにぎっしり詰める

◆重しの仕方

最初は重く30kg以上、水が上ってから2/3に減らす気温が上昇し上がってきた水分にカビが浮くようになったらその水分を取り除き、外気と遮断する意味からビニールで覆って、その上から重しを重ねてきれいな川砂、または山砂をきっちり詰めて土用越しを待つ（気温の高い時期は覆いを取らずに、外気温が14度以下になったら取り出す）



隙間が出来ない様に大小取りまぜてぎっしり詰める



中の空気を抜き上部を止めます

春のかおり

きやらぶき

ふきをしょう油で佃煮風に煮上げた色が、香木の伽羅の色に似ているのでこの名がある。自生の山路を摘んで作ると、香りのよい保存食となる。

〈材料〉

ふき（細かいもの）1束（約6本）

だし汁 各々同量を 適量

A しょう油 合わせる

酒……………カップ 1/2杯

砂糖……………大サジ 1〜2杯

煎り白ごま（好みてふる） 少々

〈作り方〉

①ふきの葉と根元を切り取り、洗う。

②①はよく晴れた日に、リング状に結べるまでしなやかに生干しする。干し過ぎは筋っぽく、皮ばかりになるので注意すること。

③②を3センチほどの長さに切る。

④③を鍋に入れ、Aの煮汁をひたひたまで注ぎ入れ、酒も加える。

⑤④を強火で煮、煮立ったら中火にして4〜5分煮て砂糖を加える。

⑥⑤は弱火にして、煮汁が少量残るまで混ぜながら煮上げる。

⑦⑥は冷まし、容器に入れて保冷する。

保存期間は約10日間。